

オーストラリアの COVID19 の現状

昨年 6 月よりオーストラリアの大学の研究所に留学し、内分泌疾患の研究を行っております、阿部一朗です。下垂体患者の会の会員の方々も、日本の患者数のここ最近の増加、そして緊急事態宣言も出たこともあり、非常に苦しいところかと存じます。とくに（続発性）副腎皮質機能低下症を持たれ、治療されている方々は副腎クリーゼのことも含めて考えねばならず、ご心配かと思えます。

オーストラリアは日本より少し前に感染爆発が起きました。やや早めの時期から中国本土からの渡航には制限をかけていましたが、その後、イラン、韓国、そしてヨーロッパ、アメリカと入国規制が広がり、現在では国際線のほぼ全てを中止しています。オーストラリア国民は、数少ない飛行機で帰国することは一応できますが、14 日間の隔離が必要です。さらに、飲食店での食事の禁止（持ち帰り、配達可）、学校（小学校～大学）の閉鎖など様々な手をとって、開いているのは、スーパーや病院、薬局くらいでしょうか。当然その他のところへの外出は自粛を言われています。学校については、こちらは結構教育を中心にもともと IT 化が進んでいて、学校はほぼ閉鎖ですが、online で授業があっているようです。また、今はエレベーターに 4 人以上乗ることの禁止、屋外でも家族を除けば、最大 3 名以上で会って会話したり、運動したりすること自体も禁止されています。日本と違うところは、隔離等に違反すると、罰金（50 万円以上）があることです。警察も動くとなっています。これが約 3 週間前から始まり、つい数日前からですが新規の患者数は減りました。そう考えると、外出自粛などによる自己隔離が奏功しているのだらうと推測します。ただ、失業者数も増加しています。尚、私の勤務先の大学も授業は全て online、研究所もほぼ閉鎖されていますので、今は私もリモートワークです。病院については、ほぼ全ての感染者が入院加療されています。他の病気による手術は緊急手術を除き、延期されています。現時点での患者数は 7000 名程度ですが、海外からの帰国者、旅行者、クルーズ船感染者、およびその家族等が感染者の大半を占めています。COVID19 に関する情報は政府がインターネット上で毎日更新しており、比較的現状の把握はしやすいと思えます。以上が最近のオーストラリアの現状となります。

最後になりますが、下垂体患者の会の会員の方々のように疾患を抱えておられる方におけるこのような事態での対応は、本当に大変であると理解しています。例えば副腎クリーゼなどを起こされる可能性のある方は、感染時の対応として、事前に主治医に相談して頂いておくのも重要かと思えます。できるだけ自己隔離を行うことによって、感染のリスクを減らすことはできると考えられますので、そのことを是非心に留めて頂ければと思います。

Visiting Research Fellow of Cancer Molecular Pathology, School of Medicine, Gold Coast campus,
Griffith University

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科 講師

阿部一朗